



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

主題 (2014-2015)

■ 国際会長(IP) Isaac Palathinkal アイザック ハラシカル (インド)

"Talk Less, Do More" 「言葉より行動を」

スローガン "Do it Now" 「今すぐやろう！」

■ アジア会長(AP) Yaz Okano 岡野 泰和 (大阪土佐掘)

"Start Future Now" 「未来を始めよう、今すぐに」

スローガン "One Asia One world" 「ひとつのアジア、世界はひとつ」

■ 西日本区理事(RD) 松本 武彦(大阪西)

"To walk together,echoing each other" 「響きあい、ともに歩む」

—こころ豊かにワイズ活動を展開し、ワイズスピリットをつないでゆー

■ 六甲部部长(DG) 多胡 葉子(宝塚)

『わたしとあなたのY'sダムをYMCAと共に ユース・交流・地域』

■ 西宮クラブ会長(CP) 山口 吉郎

『もっと楽しく、そしてワイズダムらしく！』

"Let's enjoy Y's activities"

★ 2015年1月 西日本区強調ポイント "IBC-DBC"

川本龍資 国際・交流事業主任(名古屋クラブ)

「クラブ→部→区→エリアを超えた交流！国際組織であるワイズの醍醐味です。

IBC・DBCを通じ、出会い→交わり→新(再)発見→自己研鑽を体験しよう」

私たちのモットー:強い義務感を持つ、義務はすべての権利に伴う

To acknowledge the duty that accompanies every right !

2015年1月第801号

《68期7号》

Since 5.17.1948

スポンサークラブ

・大阪クラブ

DBC 締結(2007)

・近江八幡クラブ

・広島クラブ

クラブ主役員

会長 山口 吉郎

副会長 山本 常雄

直前会長 堤 一幸

書記 廣瀬 一雄

書記 西山 茂夫

会計 足立 康幸

会計 濱崎 進一

監事 岩田 健司

担当主事 宗行 孝之介

部地域奉仕環境主査 堤 一幸

今月の聖句

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。

見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」

(コリントの信徒への手紙二 4章 18節) 馬場一郎選

2015年1月第一例会ご案内

日時 1月9日(金) 19時~21時30分

会場: 賀川記念館 4階

神戸市中央区吾妻通 5-2-20

ドライバー: 丸山ワイズ、馬場ワイズ

(会費 2500円)

1. 開会点鐘
2. 聖句朗読 堤ワイズ
3. ワイズソング
4. ゲスト・ビジター紹介 山口会長
5. スピーチ
「プラスONEネットの活動を通して」
プラスONEネット代表 西山安子氏
6. 新年会
食前感謝 小野ワイズ
会食
7. お誕生日お祝い
8. ワイズ・YMCAニュース
閉会点鐘

【12月例出席状況】

第1例会(12.13日)

メン 22名(内MU4名)

メネット・コメント 7名

ゲスト・ビジター 16名

合計 45名

出席率 95.7%

在籍数 23名

第2例会(12.26金)

メン 12名

メネット・コメント 0名

ゲスト・ビジター 0名

合計 12名

(累計出席率 97.8%)

【お誕生日】 濱崎進一メン(1/1)、廣瀬一雄メン(1/1)、
石井恭子メン(1/2)、三島知穂メネット(1/5)、
濱美智子メネット(1/10)、山口政紀メン(1/20)

【ファンド・BF累計】12月

ニコニコファンド ¥7177 累計 ¥18367

Brotherhood Fund (目標 345\$) ¥0 累計 ¥16200p

東日本大震災 Fund (目標 ¥27600) ¥0 累計 ¥10800

【会長メッセージ】

会長 山口 吉郎

あけましておめでとうございます。
穏やかな新年をお迎えの事と、お慶び申し上げます。
昨年中は、何かととらぬ会長をフォローしていただきありがとうございました。皆様のご支援ご指導のおかげで、なんとか前半のイベントを終えて折返し点まで来ることができました。3月の会長研修会から今期前半を振り返ると、多くのことを学ばせていただきワイズメンズクラブの実態がかなり会得できました。会長をさせていただいたおかげだと思います。特に、10月から12月のイベントラッシュ時は、かなりハードでしたが、いい経験となりました。これから後半戦に入りますが、宮古支援の輪を広げる活動をはじめやるべき事がまだまだ沢山あります。西宮クラブの底力で、目標達成に向けて邁進しましょう。

私事ですが、先日ついに前期高齢者となりました。依って3月には退職となり、会社生活から解放され、自由時間が増えます。急に生活が変化するので、不安もありますが、何をしようかと楽しみでもあります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

【第一例会報告(11月開催分)】

「盛岡YMCA宮古震災地域復興支援の輪を広げる活動」

講演会ドライバー小野 勅紘メン、堤 一幸メン



今期の地域奉仕・環境事業の目玉事業で、今期始まって以来、堤主査、馬場メン、長井メンら分科会のメンバーをはじめ全員で準備を重ねてきた講演会が11月29日(土)阪神御影クラッセの4階の神戸YMCAユースプラザで開催された。

講演会が11月29日(土)阪神御影クラッセの4階の神戸YMCAユースプラザで開催された。

クラブとしては第一例会を兼ね、13時に集合した後講演会の準備をした上で、14時より第一例会を持った。もりおかクラブから井上修三・優子さんも第一例会から参加された。第一例会では山口会長からY'sニュース、宗行館長からYMCAニュースの報告があり、誕生日のお祝いも持った。そのあと講演会の段取りなどが簡単に小野メンから報告された。司会には堤メンが担当。

今回の講演会には西日本区地域奉仕・環境事業委員会からの支援金を戴いた上に、渡壁地域奉仕・環境事業主任(長浜)、多胡六甲部部長(宝塚)も立ち合って頂いた。8月末から始まった各部会には六甲部会をはじめとして、4部会にアピールに委員を

派遣し、また西宮クラブはもちろん六甲部あげての事業であるので、六甲部8クラブ全てにもアピールに出向いた。その甲斐あって合計で74名の多くの参加をいただいた。

はるばる盛岡YMCAから濱塚総主事と、齊藤宮古ボランティアセンター長にお越しいただいた。この事業の火付け役でもある池田元大阪YMCA主事(元六甲山YMCA所長・現堺市立小学校校長)もご病気が癒えて参加され、その後のセンター長であった木田さんも参加された。齊藤さんを含めて3代のセンター長が揃った。また宮古ボランティアセンターに奉仕に参加された、神戸市立六甲高校のメンバー5人が参加されたことは出色であった。六甲部の各ワイズメンズクラブもそれぞれ参加頂き、特にもりおかクラブとDBCを結んでいる芦屋クラブからは8名が参加があった。

講演会は最初に衝撃的な津波の動画が映し出された。濱塚総主事から今迄の支援への感謝の言葉があった後、当初からの活動から現在に至る経過が説明され、現在は遊ぶ場所もままならない宮古の子供たちを支援する活動に重点を置き、そういった子どもたちを支える学生ボランティアの育成にも力を入れていることが報告され、さらなる支援を求めのお話であった。

続いて、齊藤ボランティアセンター長からは、当初からのセンターの活動の経過の説明があった後、現在の状況また今後の活動計画が披露された。現在赤い羽根などからの助成金の申請をしているので、認可されたら資金的支援をもとにセンターを継続していきたいとのことであった。

最後に皆様にアンケートをご記入いただいて閉会となった。講演会の司会是小野メンが担当。

終了後急いで後片付けをして、阪神御影駅前の居酒屋「なだ番」において、懇親会がもたれた。もっとも、もりおかクラブと芦屋クラブとのDBC交流の場としても提供した。懇親会は会場の都合で2か所に分かれたが、大いに盛り上がり21時頃に打ち上げた。その後有志が住吉駅前の山本宅「きらら20階」で3次会も持たれて有意義な集いであった。懇親会は堤ドライバーが担当した。

その後、芦屋クラブはじめ各方面から大変有意義なイベントであったとの講評をいただいている。実は作業はまだ半ばで、年明からは講演会の様子をDVDに纏めて西日本区全クラブに配布して宮古支援の輪を広げる作業が待っている。今期の集大成として皆さんに訴える力になったでしょうか。反響を期待して更に宮古支援を盛り上げましょう。講演会開催に当たりご協力いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

キャンパー、リーダー、そして若いスタッフにも共通して、自分に都合の悪い事象を全て「他者の所為にする」ということが顕著になってきていることです。たとえば天候。キャンプの天候が悪いとそれは引率者の所為らしいです。小学校1年生の女の子がグレンデ上部で立ち往生。確かに連れて行ったリーダーのミスではあるのですがパニックになってしまって万事休す。私が下しましたけれども状況が悪いときに何とか自分の手持ちの能力や資源を総動員してその状況に向き合うといった「能動性」が見られない。これは圧倒的に経験不足であろうと思うのですが、逆に言えばこの状況にいかに対処するかを体験すると大きな力になります。おひるごはんすんで落ち着いてから私は彼女をもう一度先ほどの現場に連れてゆきました。急な斜面は板を外して、先ほどの斜面でもう一度板を履いてもらいます。今度は無事成功。段階的指導法と“One at a time”を使っただけなのですが。現代社会ではなかなか難しいことではありますがひとつひとつ丁寧に課題に取り組むことがますます必要な時代になってきたと痛感した次第です。

【リーダー会便り】

【キッズ】

12月のキッズは西宮市の北山に行き、岩登りをしました。

自分よりもずっと大きな岩に全身を使って一生懸命に登り、目の前に広がる景色に「すごい！」と叫ぶメンバーもいれば、いざ登ってみるとその高さに怖くなったのか景色どころではなくすぐに「やっぱり戻る！」というメンバーもいました。また“岩のトンネル”(隙間)を見つけ、そこを秘密基地にして遊ぶ男の子たちや、キッチンやベッドに見立ててお料理をしたりゴロンと寝転んだりして遊ぶ女の子たちの様子が見られ、メンバーたちは岩場で様々な遊びを展開させていました。普段の山登りにはない活動がたくさんできたと思います。

【ジュニア】

12月ジュニア例会は須磨アルプスで山登りをしました。友だちとドングリを拾ったり紅葉を見たりして自然を感じたり、柘尾山～横尾山～東山と3つの山を制覇したことに達成感を感じた子どももたくさんいました。

また、山登りは一人一人の歩くペースが異なり、それによってグループで色々な関わりが生まれ、相手を思いあつて励ます姿も見られました。

これからも友だちと自然に触れ合う活動を通して友だちの良さや新たな自分の姿を発見し、それらが子どもたちのこれからは活かせられるような活動をしていきます。

【シニア】

いつも私たちリーダー会をご支援いただき、ありがとうございます。私はシニアのセクションで活動させていただいている長谷川万莉といいます。シニアの12月例会は、当日天気も晴れと恵まれ、全3グループが五助谷から打越峠を目指して主体性をもって楽しみながら登りました。子どもたちは、自分たちで自然の中ならではの遊びを見つけ、のびのびと楽しむ姿も見られました。また、子どもたちそれぞれの成長がものすごくみられた例会となりました。活動も残り少なくなりましたが、子どもたちの輝いた姿、笑顔がみられるよう、私たちリーダーは頑張っていきたいと思います。

【3クラブ交換ブリティン】

近江八幡クラブ 安田博彦



「DBCの従妹たち」

合同例会の際にはいつも厚かましく・無遠慮に、そして、馴れ馴れしく目立ちたがり屋の安田です。私のDBCに対する思いは、クラブが家族であれば、DBCは、やんちゃ遊び仲間の従兄弟同志かなと思っています。クラブ内では親睦の前後に奉仕がありますので、必然的に、意見相違や対立があったりしますが、家族という大きな愛で許し合い認め合いひとつの目的を達成しようとしているのだと思います。DBCの場合は、奉仕より親睦の機会が多く、しかも、半年・一年単位の逢瀬ですので、短時間で密度の高い交流をはかりたいという思いがあります。時候の挨拶など抜きに、会ったら、すぐにともに遊びたい、もっと深く討論したいという昔の従兄弟同士の間柄を思い出されます。

また、離れた見知らぬ土地を訪問した際には、ガイドブックには載っていない名所に行ってみたい、あるいは、安くて美味しい珍味を食べてみたいという思いは皆さんお持ちだと思います。そんな時、気軽に声をかけることができるのも 反対に、断ることができるのも 従兄弟関係にあるDBCだからこそ嬉しく思っています。DBC公式行事だけでなく、互いの家にホームステイするほど個人的な繋がりが深まり、広がって行くことも歓迎すべきことだと思っています。

我々はワイズメンズクラブに所属しており、互いの信用は大前提であり、初対面ですぐに自分をさらけ出すことができます。それに加えて、我々DBCはクラブカラーも個人的カラーも似ているような気がします。従って、互いの価値観は似ていますし、意見の深堀もできるものと思います。その意味で、条件はそろっていることと解し、今後も、もっと親睦を深め、親睦を広げて(旅行・趣味・研究など)いこうではありませんか。

【西日本区だよりー6】



＜部会訪問記＞ ～盛岡宮古

支援講演会のアピール～

小野 勅紘メン

ワイズメンズクラブの秋は「イベントラッシュの秋」たけなわ。毎週何かし

らある。

クリスマスから年を越すと、イベントの性格はがらりと変わり、次期に備えた準備の会議や研修会が多くなる。切り替えが課題だろうか。前期六甲部EMC事業主査の経験からそれが、EMCの成果に影響しているのかもしれない。通年で「起承転結」を踏んで、次第に盛り上げて欲しいところだが、逆に後半は総括に入り、6月末のいわゆる「魔の年度末」の「大量ドロップ」を迎える。

私は入会以来、常に「時間」と「経済性」との狭間を歩いてきた。まずは予定が空いてなければならぬが、年金暮らし中心の我々の世代は懐(ふところ)事情と相談が必要。嫌がおうにも、近隣で登録費の安価なイベントに参加する傾向になる。

しかし、部や区の役員を務める場合そうはいかない。勿論クラブや部・区からの補助はあるが、多くは自己負担となる。09-10年度理事事務局の年は、結局全9部の部会、研修会(直前・現2回×2年=4回)、役員会(年間4回)、西日本区大会、実行委員会、周年記念例会、国際・アジア大会、その他の集りの密度は高く出費は大きい。私の活動の場は仕事も含め、京阪神に亘っていて交通費の出費が大きい。それに替えられない見返りや成果もある。全国や海外に多くの友人が出来、違った土地の見聞を広めることも可能だ。

次期は西日本区のEMC事業主任を務めるので、相当の覚悟が必要で、それに加えて健康維持が一番大切ではないかと思われる。

以来通常の年は近隣の部会(びわこ、京都、阪和、中西、六甲の各部会)やDBC締結クラブのイベントには積極的に参加してきた。今回も近隣4部会に出席して、来る11月29日(日)開催の「盛岡宮古支援講演会」のアピールを行ってきた。騒然とした中でのアピールには限界がある。チラシが無造作に残されると悲しくさえなる。しかし、毎回メゲズに、そのチラシも回収しては次の部会で配布して訴えてきた。最後まで心配は尽きない

中西部会でのスピーチ(9/20・キャッスルH)

そんな部会の中で、印象に残ったスピーチをご披露したい。(中西部会での金城学院淀川キリスト教病院理事長である柏木哲夫先生の講演、テーマ:「いのちに寄りそう」)

私たちが地域奉仕やボランティアを志し、その現場では、この「寄り添い」とか「支援」という言葉を簡単に使ってきた。先生は東北支援の現場で、その

違いを実感された。

【ボランティア行動の時系列行動パターン例】

(時期)(行為)(手段)(位置)(目的物) ↓
 直後→差し出す→技術→上から→技術力 ↓
 初期→支える→体を→下から→体力 ↓>
 中期→寄り添う→心に→横から→人間力 ↓
 後期→背負う→魂を→全体で→宗教力等 ↓

被災された人々には何が必要なのか。それは時間の経過と共に変わってくる。東北被災地は上記の「中期」に相当する。直後のインフラを整備したり、被災者を支えるという時期は越えて、「心に寄り添う」時期である。「支援」と「寄り添い」とは違う。支援とは「上から目線」で「やってあげている」という感覚。「寄り添い」とは「相手の姿勢に合せて「横から」位置」。チャリダーや象に寄り添う少女の写真などで示された。最後は「人間力」が必要になってくるという。

人間力とは

1. 聴く力、2. 共感力、3. 受容力、4. 思いやる力、
5. 理解力、6. 耐える力、7. 引受る力、8. 寛容力、
9. 存在力、10. ユーモア etc...

「人間は死ぬために生きている」



- ・人間の死亡率は100%。(作家・モーム)
 - ・死が近づいてくる。(哲学者 堀秀彦)
 - ・死が追いかけてくる。(明治維新・吉田松陰)
- 豊かな人生を送るには、「愛」と「思いやり」が必要。人間らしく笑い(ユーモア)のある人生。

「人は生きてきたように死んでいく」→(感謝して生きてきた人は感謝しながら死んでいく。)

| 良き生 | 良き死 |
|-----------|------------|
| ・感謝する生(体) | ・苦しくない死(体) |
| ・散らす生 | ・交わりの中での死 |
| ・ユーモアのある生 | (体) |
| ↓ |) |

【「ユーモア」と「ダジャレ」の違い】

- ・「ダジャレ」: 浮かんだまま口に出す(一方的)
- ・「ユーモア」: 一度呑み込んでセンスに溢れた構成にアレンジする。(愛と思いやりがある)